

2025 年度 大学院生プロジェクト型研究 成果報告会



本大学院生プロジェクト型研究は、大学院生が主体的に研究を企画・実施・報告する力を養い、研究能力を高める機会の提供を目的として実施しているものです。

上記の趣旨から、2025 年度大学院生プロジェクトの成果報告会を対面とオンライン形式を併用し、下記の要領で行います。

参加自由です。学生・教員の皆様は奮ってご参加ください！

日時 → 2026 年 3 月 12 日 (木) 13:00~17:10

対面参加 → 文科系総合研究棟 1 号館 206 教室

オンライン参加 (Zoom) → 右記 URL/QR コードからご参加ください

<https://bit.ly/inseiProject2025>

ミーティング ID : 984 5357 0323 パスコード : 044055



研究代表	研究課題
亀岡 晃佑 (博士課程後期)	怒りに関連する慢性的ストレス反応尺度作成の試み — 日韓比較による検討 —
佐野 なな子 (博士課程後期)	自己臭関係付け症症状を有する者の精神科受診促進に向けた研究
田中 悠登 (博士課程後期)	二重拘束的体験が比喩検出に与える影響
渡邊 拓 (博士課程前期)	戦中・戦後占領期における中等音楽科教育の変容 — 文部省著作の音楽教科書に着目して —
横山 将 (博士課程前期)	小規模高校への遠隔授業の推進に対する教員の認識と授業観に関する 質的研究 — 配信パターンの比較を通して —
小谷 陽里 (博士課程前期)	ネガティブなゴシップの有益性に関する子どもの理解
鳥居 明日香 (博士課程前期)	不登校生徒の心身症診断ラベルが親の援助行動に与える影響 — 診断ラベルのコミュニケーション的機能に着目して —
福田 大夢 (博士課程前期)	運動介入が反芻・感情調節および抑うつ症状に及ぼす影響の比較研究 — 筋力トレーニング・ストレッチ・マインドフルネスの 3 群間比較 —
魚谷 将大 (博士課程前期)	大学生のメンタルヘルス向上のための新しいセルフヘルププログラムの検討 — ACT Matrix に基づく行動と感情の記録が心理的柔軟性及び精神的健康に与える影響 —
豊崎 亮太 (博士課程前期)	知的障害者の自殺危機のサインに関する研究
福嶋 俊介 (博士課程前期)	生活保護ケースワーカーにおけるストレス緩和要因としての ソーシャルサポートに関する研究

【問い合わせ先】 東北大学大学院教育学研究科 先端教育研究実践センター

Tel/Fax: 022-795-3737 E-mail: edunet@grp.tohoku.ac.jp